

## 幅広いニーズに応え、 誰もが喜ぶ商品づくり

株式会社 佐藤商会

代表取締役社長

佐藤

のりつぐ

哲嗣 さん

住 所…柳川市田脇329-1

TEL…0944-7316386

FAX…0944-7217228

H P : <http://www.k-satoshokai.com>

今月の夢追い人は、株式会社佐藤商会の佐藤さんにお話を伺いました。

佐藤商会は昭和48年創業で、現在は12名の従業員がいるとのこと。

「主に家具建具に用いる木材や資材の販売を行っています。大川の基幹産業である家具建具製造用の木材の販売の他にも、建物に使用する建材も取り扱っています。おそらくですが、大川地域では少し珍しい部類になるのかなと思います」

佐藤さんで2代目になる佐藤商会。では、代表を引き継いだのはいつ頃のことだったのでしょうか。

「先代である父から事業を引き継いだのが、平成26年のことですね。これといったタイミングがあったわけではありませんが、年末に突然来期から替わりますという話になって。来期まであと一週間しかないってタイミングだったので、すごく驚きました」

「急なタイミングだったものの、いつでも代替わりできる準備と心構えはあったとお話された佐藤さん。」

「入社してから、配送や仕入、営業など様々な業務にオールマイティーに関わらせてもらっていました。配送で取引先のことを知ることから始まり、仕入に関わることで商品

になる木の特徴を学び、それから営業で自社の商品をお客様に販売していく。段階を踏みながら、会社にまつわる色々なことを学んできたので、いつかは引き継ぐのかなとなんとなくは思っていましたね。あとは小さい頃から家業に触れてきたのも要因かなと思います。小学生の頃から人手が必要なときは、板積みとか手伝っていましたからね」

国内外の木材を取り扱っているとお話された佐藤さん。では、時流とともに取り扱われる木材やその種類にも変化があったのでしょうか。

「昭和40年代頃までは、国産





多種多様な在庫を揃えている倉庫



木材を確かめる佐藤さん

の杉やヒノキで作られた家具が多く見受けられました。それ以降は家具に使用する木材の種類も段々輸入木材の使用が多くなってきたと思います。

私達もおお客様の要望にお応えできるよう、輸入木材の販売にも力を入れるようになりましたね。

輸入木材に関しては、針葉樹から広葉樹まで幅広く揃えるようにしています。

針葉樹は柔らかい素材が多い傾向で、それに比べて広葉樹は硬い素材が多い傾向があります。使われる家具の種類によって、木材も選ばれますからね。日常生活で傷がつきやすい場所に置かれる家具は、傷つきにくい木材を使用したり、広葉樹のなかには、なかなか採れない高級な木材もあるので、歩留まりを考慮しながら使われたり。企業によって木材の仕入の得意不得意もありますが、うちではできるだけ色々な種類を揃えるように心掛けています。経営的には、分野を絞って専門的に経営していくのも一つの手だとは思いますが、できるだけ幅広く、材木や合板、家具資材、建材と多種多様なおお客様のニーズに応えたいと思っています」

で、佐藤商会でも影響はあったのでしょうか。「やっぱりこれまで通りにはいかないことが増えましたね。ウッドショックも大きな影響を受けましたが、コロナに関しても影響がありました。ただアメリカはわりと早く、特需が生まれているのも事実だと思えます。実際お家時間が増えたことで、家具の需要が増えていきます。これまでの普通が普通ではないから、良い悪い含めて、どこの企業もそれが数字に表れていると思いますよ。安定しないのが企業にとっては痛手でもありますが、輸入に頼らざるをえない商品もたくさんあるのも事実なので、それが手に入れないってことになってお客様に迷惑がかららないようにと考えています。安定して商品を販売していかないと需要も減っていつてしまますからね」

コロナ禍以前は仕入のため各地へ足を運ぶこともあったそうです。

「現地の人と検品して、加工方法などについて打ち合わせをするのも多かったですね」

佐藤商会の二代目社長である佐藤さんですが、大川木材

事業（協）の青年部である大川木材青年会（以下、木青会）の令和3年度会長（第39代会長）も務められていたとのこと。

「令和3年度は木青会の40周年の年でもあり、今年の2月には式典と祝賀会を開催する予定でした。しかしこれも新型コロナウイルス感染症の影響で延期となり、6月12日に改めて開催させていただくことになっています。業界の方々と来賓もお迎えして、少し規模を縮小した形での開催を予定しています。感染拡大防止のガイドラインに沿って行いますが、たくさんの先輩方が築き上げてきた木青会の歴史とこれからについて、ご臨席いただくと皆さんにお伝えできればなと思います。このご時世でなければ、と歯がゆい気持ちがないわけではありませんが、今は当日に向けて会員一丸となって準備を進めている段階です。次の50周年にバトンを繋ぐ式典・祝賀会にしたいですね」

常に未来を見据えて行動されている佐藤さん。では、そんな佐藤さんの夢はなんでしょう。

「私たちの商品で誰もが笑顔になる商品を作っていますね。うちから卸した商品が取引先のメーカーで家具になっていくことがほとんどで、その家具を買ってくれるエンドユーザーが必ずいるわけです。そこが見えることもあれば、見えないこともあります。家具を選ぶときにいろいろな種類の木材があったほうがエンドユーザーの選択肢を増やすことができるかもしれない。それを大川の職人さんが大切に作ってくれて、エンドユーザーであるお客様も大切に使うことで笑顔が増えてくれる。それを使うことで笑顔が増えてくれたら、なお嬉しいですね。家具を買ってくださるお客様にも様々な事情があるんですよ。婚礼家具であれば両親から買ってもらったとか、子供さんのお祝いに買ったとか。それを購入する物語を大事にされる方も多くいらつしやると思うんです。木材にも物語があつて、植えて育てて収穫して適材適所で使う。このサイクルがSDGs内の目標に入っているように、買って頂いた家具も大切に使うてもらえるようにすることで、環境にやさしい取り組みになるのかもしれない。人にも、環境にもやさしい取り組みの一部になれるような商品を提供していきたいですね」